

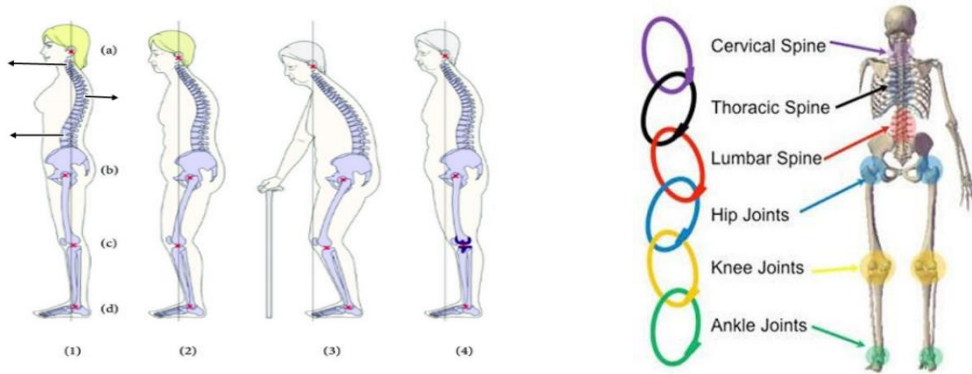
## 膝関節症の捉え方

「ひざの関節は、関節を伸ばしきる直前にはひざから下(下腿といいます)が 15 度くらい外旋(外側に回旋すること)し、ひざを曲げていくと、120 度を越えたくらいから、下腿が内旋(内側に回旋すること)します。」(一宮西病院 巽一郎) **膝を伸ばす→外旋 外に向く** **膝を曲げる→内旋 内に傾く**

すなわち、本来回旋(回ること)が難しい関節。この回旋が膝関節の許容範囲を超えた時、炎症と損傷が起きる。この原因が、腰椎にある。

本来4足歩行だった人間が2足歩行になった時も、前足と後ろ足が対角線上で動いていた。しかし、腰椎のゆがみなどにより、この対角線の動線が崩れた時、膝関節の許容範囲を超えるのが、変形性膝関節症である。いわゆる knee-spine syndrome(膝-脊椎 症候群)と言われるものである。さらには、最近 Knee-Hip-Spine Syndrome と言うことも、解ってきた。

### Improvement in Preoperative Abnormal Posture following Total Knee Arthroplasty



すなわち、すべての関節・骨格は関連して動いている。上右図

Yasushi Oshima,<sup>1</sup>Nobuyoshi Watanabe,<sup>2</sup>Norishige Iizawa,<sup>1</sup>Tokifumi Majima,<sup>1</sup>Mitsuhiro Kawata,<sup>3</sup>and Shinro Takai<sup>1</sup>

膝の痛みは、「均等の力学的ベクトルの変化による一方的部分の変形」である。アライメントを整えることで改善する。

### 治療

- ① 鍼治療で緊張した経穴の気をめぐらす。ポイント治療。いわゆる脊椎の左右・前後・上下のアライメント調整をする。
- ② 十二経絡の調整をする。全体のバランスを整える。
- ③ 前段階をしてから、脊椎矯正をする。これをしないと、また歪みが出やすい。
- ④ すると、アライメント調整された自己治癒力で膝関節を包んでいる靭帯のゆがみが調整され、関節の位置が元に戻っていくため、関節運動の挙動が解消され炎症、損傷が寛解する。

### 専門家の方へ(医師、鍼灸師、理学療法士など)

- ① 体を全体的に俯瞰し、各アライメントを、どう調整したらいいかを、お考え下さい。
- ② 患部治療の優先順位を立ててください。腰椎→胸椎→膝関節調整など。いわゆる罹患部分の上流より、治療をする段取りを考えてください。特に膝関節は、腰椎上部のゆがみから発症します。
- ③ もし治療経過が思わしくないときは、例えば1診の経過など、2診では脱落した罹患部分を優先治療するなど。